

令和3年度 自己評価結果

ひらやす保育園

1. 保育理念

子どもの幸せのため、子どもの権利条約（①生きる権利 ②育つ権利 ③守られる権利 ④参加する権利）を遵守し、人格主義の基本理念（誠実・忍耐・勤勉）と良心を育てる。

2. 保育方針

本園の教育・保育は園児の言語（英語を含む）、情緒、行動、社会性および身体の調和的発達を助長し、望ましい人間形成を目指すものである。

3. 保育目標

- ①情緒が豊かで明るい子ども
- ②よく考え、進んで行動する子ども
- ③仲良く遊び、協力し合う子ども
- ④身体が丈夫で逞しい子ども

4. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画

- ・ 保育所の特性を活かした保育の質の向上と保護者支援の充実
- ・ 仕事の効率化を図る

5. 評価項目の達成及び取組状況

評 価 項 目	結 果	備 考
(1) 建学の精神や教育、保育理念に基づいた保育園の運営状況	A	
(2) 保育園の状況を踏まえた保育目標等の設定状況	A	
(3) 保育園の保育課程、保育方針について保育士間の共通理解	A	
(4) 保育園行事の管理・実施体制の状況	A	
(5) 年間の指導計画や週案などの作成の状況	A	
(6) 遊具・用具の活用	B	
(7) 保育士間の協力的な指導の状況	A	
(8) 乳幼児に適した環境に整備されているかなど、クラス経営の状況	A	
(9) 保育所保育指針の内容に沿った乳幼児の発達に即した指導の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境を通して行う保育の実施の状況 ・ 乳幼児との信頼関係の構築の状況 ・ 乳幼児の主体的な活動の尊重 ・ 遊びを通しての総合的な保育の状況 ・ 一人一人の発達の特性に応じた保育の状況 	A	
(10) 日常の健康観察や、疾病予防のための取組、健康診断実施状況	A	

(11) 事故等の緊急事態発生時の対応の状況	A	
(12) 法定の安全計画や防災計画等の作成・実施の状況	A	
(13) 危機管理マニュアル等の作成・活用の状況	B	
(14) 安全点検や、保育士の安全対応能力の向上を図るための取組の状況	B	
(15) 個別の指導計画の作成の状況	A	
(16) 家庭との連携状況	A	
(17) 管理職の保育目標等の達成に向けたリーダーシップの状況、また多くの保育士からの信頼の状況	A	
(18) 保育園の明確な運営・責任体制の整備の状況	A	
(19) 各種文書や個人情報等の保育園が保有する情報の管理の状況、また、保育士への情報の取り扱い方針の周知の状況	A	
(20) 労働基準法等の各種法令の遵守状況	A	
(21) 保育研究の継続的实施など、指導改善の取組の状況	A	
(22) 園内における研修の実施体制の状況	A	
(23) 園内研修の課題の設定の状況	A	
(24) 園内研修・園外研修の実施・参加状況	A	
(25) 指導が不適切である保育士の状況の把握と対応の状況	A	
(26) 保育目標の設定と自己評価の実施状況 ・乳幼児や保育園の実態、保護者の意見要望等を踏まえた保育園としての目標等の設定の状況 ・目標等を踏まえた自己評価の項目の設定状況 ・自己評価が年に1回以上定期的に行われているかなどの実施状況 ・自己評価の結果の翌年度の目標等の改善への活用状況 ・全職員が評価に関与しているかなどの体制の状況 ・自己評価の結果の設置者への報告と状況	A	
(27) 保育園に対する保護者の意見・要望等の状況 ・保護者の満足度の把握の状況 ・保育相談体制の整備状況、保護者の意見や要望の把握・対応状況	A	
(28) 保育園に関する様々な情報の提供状況	A	

(29) 保育園公開の実施の状況	B	
(30) 乳幼児の個人情報の保護の状況	A	
(31) 自己評価結果の公表状況	A	
(32) 園便りやクラス便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の提供状況	A	
(33) 情報提供手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況	A	
(34) 保護者の実情や要望による保育園の子育て支援活動の実施状況	B	
(35) 園や保育士による受け入れ体制の状況	A	
(36) 施設設備 ・施設設備の活用状況 ・施設・設備の安全・維持管理のための整備の状況	A	
(37) 遊具・用具・図書等 ・遊具・用具・図書等の整備状況 ・保育環境の充実のための取組状況	A	

6. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画の考察

結 果	理 由
A	<p>【視聴覚保育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手作りで視聴覚教材を制作し、保育や行事等で取り入れていくことが出来たと思う。乳幼児にはなかなか言葉では伝えられない行事の由来なども視聴覚教材を用いることで伝えやすかった。 ・これからも子どもの言葉の獲得にも繋がるよう視聴覚教材を増やし活用していきたい。 <p>【保育環境の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・距離感覚、色認識等子どもの発達に応じた玩具を増やすことが出来た。紐通し遊びや、型合わせ玩具など、指先の発達を助長する玩具を用いることで、ボタン外しやチャックの開閉などの成長が著しく見られたと思う。 ・また、壁面や窓面などを季節に合わせた物に作り替えることが出来た。立体性を重視した壁面は、雰囲気も明るくなり、子ども達からも好評だった。

7. 総合的な評価結果

・コロナ禍中、なかなか予定していた行事を行うことが出来なかったが、動画で撮影したものを保護者の皆様に見てもらうことで、子ども達のありのままの姿をご覧にいただけた。特にお遊戯会は、保育室での撮影と規模が小さくなってしまったが、慣れている場所や時間であったため、子ども達が普段通りにのびのびと表現することが出来ていたと感じる。子どもの成長を保護者に見てもらえるよう適宜話し合い、試行錯誤しながら取り組めた結果だと思う。直接、子どもの様子を見たい保護者も多いかと思しますので次年度は、状況に合った行事の取り組み方を考え、園独自の行事を展開できたらと思いました。

8. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
園で出来る子育て支援	<p>【保護者同士の交流の場の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度はなかなか保護者を招いての行事が出来なかったため、保護者同士の関りがほとんどなかった。感染症対策を講じた上で出来る限り行事等の保護者参加の場を増やし、保護者同士の繋がりを作っていきたい。 <p>【親子のコミュニケーションの情報の発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家で子どもとどのように関わるのか、何をすべきかなどの悩みに役立つ情報を、だよりや参観日などで発信していく。定期的なアンケート実施を検討する。
マスク着用による保育の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 表情から感情、口の動きから言葉を学ぶ子ども達にマスク越しでも感情が伝わるよう、発声やボディーランゲージなどを意識しながら意思を伝えてく。また、必要に応じ、口元を見せるためにマウスシールドなどを用い、言葉の獲得に繋がられるよう使い分けていく。

◎「5. 6」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である